

記念誌「相中相高百年史」 ” 思い出の記 ” より

当時の戦況と学徒動員

高普 1 回卒 大井 博之^(※1)

ハワイ真珠湾攻撃の昭和十六年十二月八日は小学六年生であった。十七年四月相馬中学校に入学、北は亘理から南は小高に至る可成り選ばれた生徒が通学した。一年生の時は戦局が有利で授業内容は充実していた。二年生になる頃から大東亜戦争は不利となり、食糧事情は悪化して春は田植、秋は稲刈りに駆り出され授業は疎かになった。町の子は干し大根の葉を入れた粥とか水団が常食であったから、農作業後の昼食の銀飯と山と入ったジャガ芋の味噌汁には眼を見張った。原町の雲雀ヶ原には陸軍の飛行場があり、ノモハン事件で活躍した九七戦が相中や相女の上空を旋回して戦意を昂揚した。

三年生になると軍事教練は激しくなり、教務主任の誰々海兵合格、陸士合格と云う誇りに満ちた報告があった時には全校生徒の胸を揺さ振ったのである。母校を表敬訪問する海軍や陸軍士官候補生の凛々しい軍服姿は羨望的であった。昭和十七年四月十八日ドーリットル中佐指揮のノースアメリカン B25 が空母ホーネットを離艦し真昼の日本本土を空襲し、時の首相東條英機大将に衝撃を与えた。

しかし海外では強さと敏捷さで国民的なアイドルとなった陸軍の隼戦闘機（戦後母校に奉職した庄司国男^(※2)先生は若き設計陣の一人）や列国を恐怖のドン底に叩き込んだ海軍の零戦が活躍して戦況は有利であった。やがて此等軽戦の弱点を米国が知る所となり、約二倍の二千馬力のグラマン 6 F や零戦の最高時速 544km を上回る 700km のノースアメリカン P 51 の重戦が、複数機による一撃離脱戦法を編み出し、火力も倍するものを備え、機体の防火も強化（人命配慮）したために日本の攻撃を重視した軽戦にかげりがみられるようになった。

十七年六月五日のミッドウェイ海戦で大敗し、赤城、加賀、飛竜、蒼竜の主力大型空母と海軍の至宝パイロットを多数失った。十九年六月十三日のマリアナ沖海戦では空母十五隻からなる米機動部隊がサイパン、テニアン、グアム島を空襲、空母大鳳、翔鶴、瑞鶴を失い、七月七日サイパン島は玉砕した。強大な物量の外に情報（特に暗号解読）とエレクトロニクスに敗れたと云われている。

この敗戦濃厚の中十九年七月に五年生は福島日東紡、四年生は芝浦製作所に、十月十七日我々三年生 181 名は横浜の海軍航空技術廠支廠に動員された。…… 略 ……

その頃十九年十月二十五日の相中 40 回生の中野磐雄^(※3)一飛曹は神風特攻隊の第一陣敷島隊に志願し、フィリピンのマバラカット基地を飛び立ちレイテ湾沖の敵機動部隊に体当たりして散華した。十九年初冬サイパンを基地にした戦略爆撃機ボーイング B29 は 94 機の編隊で、隼と零戦を製造していた群馬県太田の中島飛行機工場を爆撃した。航路は富士山を目標に飛来し、ここで編隊を組み八王子の方向に進路をとり、武蔵野の中島飛行機工場も爆撃した。この往復路下にあった我々は度々の空襲警報とシラミに悩まされた。二十年五月富岡寮に移転したが六月十日夜勤帰りの南原文夫^(※4)、菊地了^(※5)君が、京浜急行富岡駅近くのトンネルで被爆殉死した。当時の惨状は平成六年八月発行の学徒動員五十周年記念『白山道』に詳しく記述されているので割愛する。昭和二十年八月十五日大和魂を強調し、科学と人命を軽視した戦争は終わった。

その秋受験参考書の岩切の代数学精義を手にしたが殆んど解けず、呆然自失、最初からやり直す事を決心し依願留年した。高一卒は進学率も良く後に各界の指導者を多数出したのが誇りである。

(※1) 昭和 24 (1949) 年卒 中村出身

(※2) 昭和 9 (1934) 年卒 中村出身 (昭和 20 (1945) 年～昭和 32 (1957) 年まで、相馬中学・相馬高校教諭 理科/数学)

(※3) 昭和 17 (1942) 年卒 原町出身

(※4) 上真野出身

(※5) 新地出身